

心霊スポット

ようこそいらっしゃいませ。読者の皆さまは七月の暑さでまいておられるのではないのでしょうか。今日は私たちがいっすてーじ心霊部が、皆さまに涼しく爽やかな古都京都の素敵スポットをご紹介します。



ある雨の降る夜、一台のタクシーが京大病院前から一人の女を乗せ、深泥池目指して走り出した。女は常に口をつぐみ、ただ窓の外を眺めていた。運転手は不審に思いながらもひたすら車を走らせた。しかし深泥池に近づいたとき、ふとバックミラーを見ると、なんと女の姿がないではないか…。驚いた運転手は警察に通報し大掛かりな捜索が行われたが、結局何も見つけられなかった。

後日分かったのだが、その夜京大病院で深泥池周辺に住んでいた女が亡くなったという…。

貴重な生物の生息地として天然記念物にも指定されている深泥池。しかしその表の顔とは別に、その池は平安よりもさらに昔から、人々に魔の入り口として恐れられてきた場所でもあったのだ。

それゆえに深泥池にまつわる怪談をあげるとキリがない。

- ・かつて結核が不治の病であったころ、多くの結核患者が飛び込み自殺をした。
- ・数千年にわたり形成された深い泥は、はまる二度と抜けられない。実際何体もの死体がまだ泥の底で眠っている。
- ・大型バスが事故で池に落ちたが、遺体は一体も見つからなかった。

今回はそんな深泥池の怪談の中でも特に有名な『タクシーの女』について調べてみた。一時期は新聞・週刊誌にも取り上げられ、全国的に有名になった噂だ。話によるとタクシー業界では「夜に深泥池に関わる女性客を乗せるな」といった注意さえあったらしい。

そこで実際に黒髪女子部員、天然水に京大病院前からタクシーで深泥池に行ってもらうことにした。またそれとは別に、タクシーの運転手に聞き込みも行なった。

調査の結果、女性がタクシーから拒否されることはなく、また調査に協力していただいた運転手の大半の方も噂は知っているが、気にしていなかった。

しかし、暗闇の深泥池はやはり不気味で、静かにたたずむその姿はどこか異世界へと繋がっているようだった。

清滝トンネル

嵐山から山奥のほうへしばらく進むと、清滝トンネルはある。このトンネルはもともと使われていた愛宕鉄道が廃線になった折、市道に流用されたようだ。

このトンネルも他のスポットに負けず劣らず、多くの噂が立っている。

- ・このトンネル工事は手掘りだったため、何人もの作業員が亡くなった。その作業員たちの恨みのためか、事故が多発している。
- ・行きと帰り、トンネルの距離が違う。
- ・トンネルを車で走っていると、女性が車のボンネットに落ちてくる。またそれを体験したものは、発狂する。
- ・トンネル内に不自然なカーブミラーがあり、そこに映し出された髪の長い女性を見てしまうと必ず死ぬ。

実際に行ってみたところ、中は車が通れば人が歩けないほどの狭さで、さらに妙にうす暗いトンネルであった。常に冷たい風が吹き、その風の音は何かのうなり声のようである。数回、中を往復をしたが噂のような現象やミラーは見つからなかった。しかし、ナトリウムランプの独特な明かりと、吹き抜ける風の冷たさに思わず、鳥肌が立った。

清滝トンネル周辺にはまだ他のスポットがあり、その一つが「下向きのミラー」である。それはトンネル横の峠道頂にあるのだが、なぜか下向き（右写真）につけられているのだ。なんでもミラーを見たときに自分の顔が映らなければ死ぬそうだ。しかし今回は心霊部員の全員の顔が映ることが確認された。



誰も通らない山の頂でたたずむ鏡



そのミラーが設置された理由を調査してみると、複数説あった。

- ・子供が事故にあり、そしてあの真下を向いたミラーが取り付けられた。
- ・（峠の頂なので）反対から登ってくる車を確認するために設置された。

しかし、どの話にしても設置されたミラーは地面にほぼ水平で、真下に行かなければ鏡として機能していない。それ故、その理由は依然として不明である。

はみだし
すてーじ

宇治キャンパスにやたらと四葉のクローバーが多い一角が…。何か怪しい物質でも流れているのでしょうか？（職 おけいはん組）
⇒霊の力です!?

（犬が多いところによく生えるという噂が…；編）

貴船神社

真夜中の丑の刻…「ドスン、ドスン」。真っ暗闇の中、髪を乱し白装束を着た女が神社の古い神木に五寸釘でワラ人形を打ち付けていた…。

心霊に興味がない人でも、一度は「丑の刻参り」という呪いの儀式を聞いたことがあるのではないだろうか。実はここ京都は「丑の刻参り」の発祥の地であり、そして儀式の場に選ばれたのが、この貴船神社なのである。

この呪いは平安時代に始められたものであり、もともとは謡曲『鉄輪』として伝え広められたものだった。噂によると今でも時々、貴船神社参道の太木には五寸釘やワラ人形が打ち付けられているという。

奥宮

今回調査のため貴船神社に丑の刻(2:30amごろ)に参拝した。

貴船神社自体は全国でも有数の観光地として知られていて、周辺にも人の住む建物が多かった。しかしこの呪いの舞台である奥宮まで行くと辺りに建物はなくなり、そして光源は参道に不気味に並ぶ灯籠の明かりのみとなった。

残念ながら、いやむしる幸いにも神木に打ち付けられたワラ人形を見ることはできなかった。しかし、丑の刻参りは人に見られると、逆に術者本人に呪いがふりかかってしまうという。もしかすると、今回立ち入りはしなかった山際や奥宮の後ろには、誰かを呪ったワラ人形が打ち付けられていたのかもしれない。

最後に付け加えておくと、本来貴船の神は、縁結びの神様として有名である。



代々と呪いが行われてきた奥宮



その効果は古い伝記などの中にも残されていて、特に和泉式部のものがある。

ただ、縁を結ぶということは自分とその相手以外の縁を断ち切ることと表裏一体であることを忘れてはならない…。

將軍塚

八坂神社・円山公園の東に位置し、京都でも有名な夜景スポットである將軍塚には、行ったことがある人も多いだろう。しかしここも実は、古くからの神秘的な伝説がある場所なのである。

この將軍塚はもともと桓武天皇が平安遷都に際し、京都の守護神として征夷大将軍坂上田村麻呂をかたどった武神像(約2.5m)を埋めたとされる場所である。

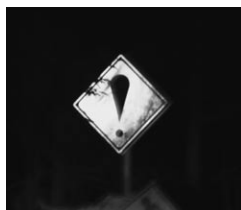
またそのときの桓武天皇の宣命により、京都の遷都を企てるものは、將軍塚の守護神から呪われて罰せられ、また天下に異変があれば將軍塚が鳴動すると伝えられてきた。



実際、過去の資料には

・貞和五年(1349)2月26日夜半に將軍塚が鳴動。翌日清水寺から出火し、本堂や阿弥陀堂等が全焼。(太平記)

・慶長三年(1598)8月に鳴動、同月に豊臣秀吉が伏見城で死去。(和訓栞)とあり、また他の様々な文献にもまだまだ多くの記録が残されている。



暗闇に浮かぶ不気味な標識

また將軍塚に行く途中にも、不思議なスポットがある。それが左写真の道路標識だ。この道路標識は、普段あまり目にしない「その他の危険」というものなのである。

噂によるとこの場所の標識はなんと「幽霊に注意」という意味らしい。実際この標識には、自然災害など土地固有の標識と『原因不明の事故が多発する場所』に設置される標識の二つのタイプがあるそう。確かにこの場所は東山トンネル(下参照)や火葬場に近く、幽霊に道連れにされないように気をつけねばならない場所といえるだろう。

その他の有名スポット

清水寺

京都の観光地といえば必ず候補に上がる清水寺。そんな清水寺も実は暗い伝説を持っている。

有名な諺「清水の舞台から飛び降りるように…」は、実はこれは、本当に命を懸けて飛び降りれば願い事がかなうという信仰からはじまったのであり、江戸時代

には実際に飛び降りた人が多かったのである。そのあまりの多さのため、明治5年(1872)8月、京都府が舞台からの飛び降り禁止令を出したほどだ。

ただ付け加えておくと、舞台の高さは13mであり、記録に残っている人(234人)の中での生存率は85%と高い。しかし、それでも30人以上の人が願いを叶えることなくそこで息を引き取ったのはいうまでもない。

東山トンネル

將軍塚の下方、国道1号線を京都の市街地から山科方面へ向かうと、草むらの中に歩行者用のトンネルがひっそりと存在している。

このトンネルは幽霊、特に「武者」の幽霊が出るということで有名である。またその周辺には、將軍塚やかつての死刑場、火葬場があり、さらに本当の心霊スポットとしての信憑性を増している…。

はみだしすてーじ

マンネリ化した日常から逃げ出したい…。
⇒そんなあなたの隣にもほら、怪異がした?

(医・5 しゃちょー)
(怖いよりはマンネリのほうが…;編)